

将棋

強くなるための十五章



大人版

重松 孝

はじめに

この本は、将棋指導歴14年の講師が、
将棋が強くなる考え方をやさしく説いたものです。

この文章を書き写し、
どういう意味かを考えて、
自分なりの将棋観をつくると、
きっと強くなるための大きな助けとなることでしょう。

重松 孝

将棋

私は、将棋が好きです。

私は、絶対強くなります。

よくみる。深く考える。

強い気持ちで戦う。確認する。

詰将棋、手筋、次の一手、対局を

楽しく続けたいです。

私は、絶対、将棋が強くなることを

ここに宣言します。

平成
年
月
日
名前

将棋は対話。

将棋は二人です。二人とも勝ちたい。

自分も真剣。相手も真剣。

どちらも一所懸命。

自分、相手、自分。三手を考える。

これが三手の読み。将棋の基本。

相手の手の意味を考えることが大事。

相手の手を考え、自分が勝つにはどうしたら

いいのか工夫する。

平成
年
月
日
名前

将棋は気持ちが大事

将棋は、気持ちが強くと影響します。

勝とうと思ふのはいいですが、勝つたと思ふ

と逆転されます。悪くてもあきらめないこと

です。すぐに勝とうとあせらないことです。

気持ちがいらいらしていると考えることがで

きません。

落ち着いて、自由に、しつかりと、確認しな

がら指すことが大事です。

平成
年
月
日
名前

将棋の精度を上げる	読みと大局観と将棋の流れが大事。読みとは	一つ一つ考えていくこと。三手の読みが基本	で、もつと先まで考えたりします。大局観は	経験などによる直感。練習すると、全体の形	からいい手が見えてくる。これが大局観。	読みと大局観と将棋の流れの三つで考えると	よい手になる確率が上がります。個と全体で	考える。木と森で考えることが大事です。	平成	年	月	日	名前
-----------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----	---	---	---	----

将棋のマナーの大切さ

対局は「お願いします」とあいさつして始め
ます。対局中、お互いしっかかり考えられるよ
う静かな態度で将棋を指します。負けだと思
った方が「負けました」と言います。最後に
相手に感謝の気持ちで「ありがとうございます
ました」と言います。
マナーは大事。
礼儀作法も実力のうち。

平成
年
月
日
名前

駒のかたづけ
将棋を楽しく続けるために大事なことは、対
局が終わったから、きちんと数を数えて駒をか
たづけることです。

王将と玉将、飛車が二枚、角が二枚、金将が
四枚、銀将が四枚、桂馬が四枚、香車が四枚
歩が十八枚、あと余った歩を数えてかたづけ
ます。きちんとかたづけないうで駒がなくなれ
ば、次に将棋を指せません。

平成
年
月
日
名前

平成	身	と	順	④	の	素	要	ど	形
年	に	良	に	の	安	と	素	ち	勢
月	つ	く	大	順	全	は	を	ら	判
日	く	な	切	に	度	、	使	が	断
名前	大	り	で	大	④	①	っ	優	の
	局	ま	す	切	手	駒	て	勢	4
	観	す	。4	で	番	の	、	か	要
	に	。4	要素	す	、	損	判	を	素
	近	要素	が	。終	得	②	断	判	
	い	で	良	盤は	②	駒	し	断	
	手	考	く	④	序	の	ま	す	
	が	え	な	↓	盤	効	す	。形	
	指	る	る	③	は	率	勢	判	
	せ	と	よ	↓	①	（	断	断	
	ま	、	う	②	↓	働	の	の	
	す	経	に	↓	②	き	4	4	
	。4	験	指	①	↓	）	要		
	要素	で	す	の	③	玉			
					↓				

将棋で強いチームをつくるには

平手は二十枚対二十枚。同じ駒数で戦う。一

枚の駒がそれぞれ力を発揮し、全体としても

一つの目標を目指して力を合わせる。それぞ

れのよさを知り、全体が協力することだ。そ

れぞれの駒の手筋を知る。戦法や理想形を知

る。盤面を広くみる。駒の声を聴く。

個人がイキイキし、つながり、個としても集

団としてもよい組織をつくる。

平成
年
月
日
名前

平成	歩	歩	角	に	る	こ	自	将	歩
年	に	は	だ	攻	。歩	の	陣	棋	が
月	戻	、	。	め	の	歩	の	の	う
日	る	成		ら	手	を	二	駒	ま
名前	。歩	れ		れ	筋	う	十	を	く
	の	ば		る	を	ま	枚	数	使
	手	一		と	く	く	の	え	え
	筋	と		弱	使	使	う	る	と
	は	金		い	う	こ	ち	と	強
	大	。		の	と	と	、	、	く
	事	相		は	が	が	断	断	な
	。	手		、	で	半	然	多	る
		に		前	き	分	い	駒	
		取		に	れ	の	駒	が	
		ら		進	ば	九	あ	あ	
		れ		め	、	枚	る	る	
		た		な	強	が	。	。	
		後		い	く	歩			
		は		桂	な	だ			
				と		。			

平成	よく考えるためには、よくみること
年	よいところがあればわるいところがある、わ
月	るいところがあればよいところがある。
日	たとえば穴熊は堅いが、一方に駒が集まるの
名前	で、反対側に駒が少ない。中央がやられても
	相手の端が弱いときもある。
	よくみて弱いところを攻める。
	よくみること、気づくことができる。おち
	ついて、盤を広く、よくみるとみえてくる。

将棋 強くなるための15章 大人版

<http://p.booklog.jp/book/87859>

著者：重松 孝

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/iihonkakitai777/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/87859>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/87859>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ